

2011 年 10 月 24 日

XX 運輸株式会社御中

IT アセスメント報告書

アルティクト株式会社
澤田 貴之

目次

1. 調査方法.....	3
2. 現状の分析.....	3
稼働中の主なシステム.....	3
現状の問題点.....	3
緊急に対応が必要な課題.....	3
3. 短期プラン.....	4
プラン A 運行管理システムの統合.....	4
プラン B メールサーバーのアウトソーシング.....	5
4. 中期プラン.....	6
営業部員の iPad 化.....	6
iPad のアプリを利用した運行記録入力.....	6

0. 注記

本レポートに関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

アルティクト株式会社 澤田貴之

050-3786-0311

sawada@artict.jp

1. 調査方法

今回のアセスメントにあたり以下のヒヤリング・見学を実施させて頂きました。

2011 年 10 月 20 日 井上社長

2011 年 10 月 21 日 山本事業部長

2011 年 10 月 21 日 千葉営業所において配車作業などを見学

2. 現状の分析

稼働中の主なシステム

システム名	コメント
運行管理システム	本社と営業所で別々のシステムが稼働している
	サーバー自体も別々に管理
	システムの保守はアウトソーシングしている
メール管理システム	メールサーバを自社に置いている
ホームページ	Web サーバを自社に置いている
会計システム	弥生会計を使用

現状の問題点

- 運行管理システムが拠点ごとに別々に存在しているため余分な運用コストが掛かっている。
- ホームページが会社紹介レベルで問い合わせフォームなどが使いづらいものになっている。

緊急に対応が必要な課題

	課題	起こりうる問題	対策
--	----	---------	----

	社内の無線 LAN が暗号化されていない	情報漏えい	暗号化の設定
	社内の PC に古いウェブブラウザ (IE6) が使用されている	ウィルス感染によるデータ破壊、情報漏えい	最新ブラウザへアップグレード (無償)

3. 短期プラン

プラン A 運行管理システムの統合

【プラン概要】

- 現在、別々に管理されている運行管理システムを一つに統合すると同時に現在、手入力になっている業務をシステム化
- 個々の営業所にサーバを置いているのをクラウド方式に変更

【解説】

営業所ごとに運行管理システムが異なる理由は、業務プロセスが異なるためとヒヤリングでお伺いしました。しかし、これらの違いはシステム設計時の工夫で対応可能であると判断されます。

【メリット】

- システムの統合によるハードなどの費用削減
- システムの統合によるソフトウェアの保守費用削減
- 将来的なシステム拡張のコスト削減
 - システムが別々の場合、新機能を追加するのは困難

【デメリット】

- クラウドサービスを利用した場合、ネットワークトラブルが発生した場合運用が止まる危険がある。
 - WiMax など別の通信手段をバックアップとして準備することで対応可能
- 特定の営業所固有の業務への対応が難しくなる可能性がある。
 - 設計時に工夫することで対応可能
 - そもそもそのような業務の流れを発生させない工夫も必要

【投資効果】

<効果>

システム関連

単位: 万円	現状	導入後	効果
ハードウェア管理費	240	12	228
ソフトウェア保守費	120	80	40
			268

人件費関連

1 日当たりの時間短縮効果	2	時間
時給	1,000	円
年間稼働日数	240	日
期待される削減効果	480,000	円

1 年間の削減効果 316 万円

5 年間の削減効果 1580 万円

<コスト>

プロジェクト管理 120 万円(アルティクトのサービスを利用する場合)

開発費 400 万円

合計 520 万円

投資の回収

約 2 年で投資分は回収可能と判断されます。

プラン B メールサーバーのアウトソーシング

【プラン概要】

現状ではメールサーバ、Web サーバとも自社管理していますが、自社で管理する必要性は低いと考えられます。一方、自社管理することでコスト面や緊急対策の面で不利となっています。

【投資効果】

<効果>

単位: 万円	現状	導入後	効果
ハードウェア管理費	120	0	120
ソフトウェア保守費	120	60	60

1 年間合計削減効果 120 万円

5 年間合計削減効果 600 万円

<コスト>

プロジェクト・サポート 40 万円(アルティクトのサービスを利用する場合)

※ アウトソーシング先の業者選定、契約交渉などが含まれます。

初期設定費用 10 万円

合計 50 万円

投資の回収

約半年で投資分は回収可能と判断されます。

4. 中期プラン

2～3 年後のプラントして以下が考えられます。

営業部員の iPad 化

PC の利用率が低い営業部員への PC 支給をやめ、iPad やスマートフォンへ変更する。

【メリット】

- PC のコスト削減
- PC の管理コスト削減
- PC にインストールされているソフトウェア(MS オフィスなど)のコスト削減
 - (利用率が低いために)ウィルスソフトが最新になっていないなどの理由によるウィルス感染などのトラブル発生リスクの削減

iPad のアプリを利用した運行記録入力

ドライバーへ iPad, スマートフォンを配布し、運行記録を入力してもらう。

【メリット】

現在、紙ベースで行われている処理の省力化およびミスの低減